【病虫害防除のコツ】

しっかり管理すると美しく咲く　写真提供／中道徹三郎

【強い植物を作る】

まず、病気や虫に負けない強い植物を育てることが肝心。●日光に十分当てる●風通しを良くする●水はけの良い土を使う●肥料を与え過ぎない、が基本。植物の大敵は過保護、軟弱肥満、水の飲み過ぎ、肥料の食べ過ぎ。周囲を清潔にし、虫や病気の温床となる腐った物や雑草は除きます。

【病気は取り去り手術が一番】

花ガラや古い葉には、灰色のカビやうどん粉状、黒茶色の斑点などの付く病気があります。茎が急に黒くなってしおれたり、根が枯れたり。病気になると、プロでも治すのは至難の業。しぼんだ花や黄色くなった古い葉、しおれた茎は早めに取り去ります。また、病気が出始めた株は早めに隔離することが大切です。

植物の病気の大半はカビの仲間。暗くジメジメした所が大好きです。花や葉、茎に強い水をかけると傷が付き、病気を広げます。水やりは土だけを湿らせます。腐った水は病原菌のすみか。鉢の下に水をためるのは厳禁です。

【虫は犯人逮捕が鉄則】

ガの幼虫のケムシやアオムシ、コガネムシの幼虫、アブラムシ、カイガラムシ、ダニ類、ナメクジ類…。植物を食い荒らす害虫類は多種多様。効果のある農薬も種類によって変わります。防除の第一歩は犯人探し。農薬に頼らず、よく観察してまめに手やピンセットで取り除いたり、つぶしたりするのが、初心者には簡単で効果的。

【行動や居場所をよく知る】

ケムシ、アオムシ、アブラムシなどの生まれたての幼虫は葉の裏や芽の先端に群がります。見つけたら、集まっている部分を枝ごと取り一網打尽に。常に食べ跡やフン、不自然なベタつきがないか観察することが大切です。

葉や新芽が食べられているのに虫が見えない時は、昼は鉢裏に隠れるナメクジや土中にひそむヨトウムシの仕業かも。定期的に鉢裏などを点検し、取り除きましょう。

ガーデニング

植物を育てる時、気になるのは病気や害虫。でも、安易に農薬を使いたくないですね。病虫害防除に大切なのは予防、早期発見、初期防除。コツを押さえて元気な植物を育てましょう。

こんな時はすぐに取り除く

虫は4月上旬〜6月下旬、9月上旬〜10月下旬に発生する。見つけたら取ってつぶす。虫が集まっている部分や食べ跡、病気の部分も除去する。花びらの病気は株全体に広まるので、すぐに取り除くことが花作りの第一歩です。

●ヨトウムシは土のすぐ下に潜み、土の表面が耕したように軟らかくなります。

●コガネムシの幼虫は土中にいます。土が細かくなり、土の量が減って水はけが良くなると居るサイン。

●ナメクジは鉢裏が隠れ家。植木鉢をはった跡や葉についた糸状のフンがサイン。好物のビールや酒を置いておくとおぼれます。

プレゼント

「ハイポネックス ガーデンセーファー アントム顆粒水溶剤」5㌘（0.5㌘×10袋）840円を10人に。野菜類、果樹、花き類など広い範囲のアブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類などの害虫退治に使用できます。23㌘の応募要領で。プレゼント番号＝30、賞品名＝アントム　商品提供＝ハイポネックス ジャパン ☎06−6396−1119　http://www.hyponex.co.jp

指導／園芸家・中道徹三郎　協力／ガーデンショップ金久 大阪府泉佐野市日根野2545 ☎072−467−2413　イラスト／小阪裕子